

重要な構成要素「^{よしのや}吉野家」

建築：不明

参道の景観を構成する要素

「吉野家」は、葛飾柴又の伝統的な名物「^{だんご}草団子」を商う木造2階建ての店舗です。

間口3間（約5.4m）、^{つま}妻入り^(注)町屋で、隣接する4軒の同じ建築類型のまちなみは、敷地奥行も揃っており、参道沿いの店舗群の中でも一定の統一感を示しており、この規模、建築類型に葛飾柴又ならではの参道のまちなみに見られる文化的景観の特徴があります。

参詣客を意識して、参道の他の店舗と棟の向きを合わせるとともに、1階軒庇下で店頭販売を行っています。参道側の外観は、ファサードが連続した参道において、屋根、^{ひさし}庇などのまちなみの表情を作る要素によって賑わいを演出しています。

（注）妻とは棟と直角の壁面のこと。妻入りは、妻に出入口を設ける建築形式。また、妻を正面とするもの。（広辞苑第七版）